

# 令和4(2022)年度 学校経営計画（学校教育目標及び経営方針）

金沢市立森本小学校

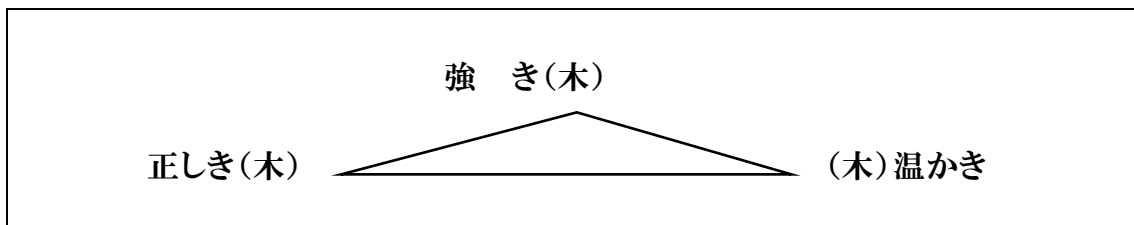
## 1 学校経営にあたって

教育の使命は、豊かな人間性を持った「人」の育成にある。豊かな人間性を育むためには、絶えず学び続けること、その学びの中で「豊かな情操」を培っていくことが大切になる。そして、それは日々の学校生活の中で実感のある理解と感動の積み上げによって育まれる。

学校のめざす方向を見定めながら、良さを高め、不十分さを補い、より良い方向に創りあげていく努力を行っていきたい。学校の課題は、全教職員にとっての課題であり、全教職員で課題解決を図る方策を探り、試行し、改善を加えながら実践していかなければならない。実践を積み重ねながら、協働意識を高め、一人一人の指導力・人間力を向上させていく。

また、学校は、地域・保護者に対して開かれていなければならない。学校の教育活動に対する理解を得て信頼を得るためにも、地域や保護者とともに歩む努力を積み重ねていく。

## 2 校訓



## 3 教育目標

【心身ともに健全で、自ら学ぶ意欲とたくましい実践力の育成】



## 4 めざす姿

**めざす学校像** <伸びる実感があり、子どもにとって楽しい学校>

- ・「健やかな身体」「豊かな情操」「確かな学力」が育まれる学校
- ・一人一人の心が大切にされ、子どもの目が輝く学校
- ・地域に開かれ、絶えず改善する学校

**めざす子ども像** <自ら学び心豊かな子>

- ・たくましく根気強い子 (体)
- ・仲良く助け合う子 (徳)
- ・よく考え進んでする子 (知)

**めざす教師像** <子どものよさや可能性を見つけ、伸ばす教師>

- ・自己研鑽に励み、指導力の向上を目指す教師
- ・子どもとともに歩み、感性豊かな教師
- ・保護者や地域との連携を大切にし、信頼される教師

## 5 学校づくりの具体的方針（中期的目標と方策）

学習指導要領、金沢型学習スタイルに基づいた研究と森本中学校区の学校との連携を深め、9年間を見通した学習指導・生徒指導を充実させることで、児童生徒の学びと育ちをつなぎ、自ら学び心豊かな子の育成を図る。また、豊かな人間性・社会性の育成や確かな学力の向上を図るために、児童理解を深め、家庭や地域との連携を強化し、基本的な生活習慣や学習習慣の確立を図るとともに、望ましい集団行動のあり方をきちんと指導する。

### (1) たくましい心と体づくり

望ましい生活習慣の指導と、体力づくりの場を工夫することで、健康でたくましい子どもを育てるようにする。

- ①基本的な生活習慣(朝食、睡眠、安定した身辺自立等)の形成に努める。
- ②体力づくりの場や方法を工夫し、子どもが意欲的に体力づくりに取り組むようにする。
- ③家庭と連携した継続的・計画的な健康教育、食育等の充実を図る。
- ④情操豊かでたくましい心を育む心の教育を充実させる。
- ⑤地域や保護者と協力して、子どもの安全を確保する。

### (2) 温かい人間関係づくりと社会性の育成

生徒指導の三機能を活かした指導に努める。また、校内生徒指導の組織的体制をより強固なものとし、全ての教職員の共通理解・共通指導のもとに、確実な共通指導実践を図る。

- ①一人一人が存在感のある学級、学年、学校づくりに努める。
- ②特別支援教育に関する意識を高め、配慮を要する児童の共通理解を図り、指導や支援のあり方を共有していく。
- ③生活のきまり(ルールやマナー)を身につけるための指導を組織的に行う。
- ④いじめ、不登校、問題行動等に対して、学校全体で組織的に未然防止の取組に努め、学級、学年、教育相談等の各場で問題の早期発見・迅速な対応に心がける。
- ⑤活動体験を大切にし、家庭や地域と連携した道徳教育の充実を図り、豊かな心を育てる。

### (3) 主体的に学ぶ力を育て、分かる・できる喜びのある授業づくり

学ぶ意欲を持ち、確かな学力を身に付けるため、子どもの知的好奇心を刺激するような学習活動、課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学習を展開するように努める。

- ①学習指導要領、「金沢型学習スタイル」に基づいた学校研究を深め、主体的で、対話的・協働的な学びを通して分かる・できる授業を創り出し、学習意欲に富んだ子どもを育てる。
- ②一人一人を生かす個に応じた学習活動の展開を図る。
- ③基本的な学び方や学習規律を身に付けさせ、自ら課題解決ができる学習集団を創る。
- ④各種調査結果をもとに、PDCAサイクルをいかした学力向上の取組を充実する。

### (4) 楽しい活動づくり

一人一人が主体となって取り組める楽しい活動を工夫し、どの子どもも存在感と学びがいのある学級、学年、学校づくりを行う。

- ①子どもの自主性、創造性を伸ばすために、児童会活動や学級活動の場を大切にする。
- ②活動のねらいや意図を共通理解した上で活動や行事等に取り組む。
- ③縦割り活動の意義を踏まえ、ふさわしい活動を工夫する。
- ④自己実現をめざすキャリア教育を推進する。

## (5) 共に学び活動する教師

確かな指導力を持ち、子どもや保護者から信頼される教師になるよう、学校内外で研修に努める。

- ①授業力向上のため、日々の教材研究を深め、互いの授業を参観したり、公開研究会を実施し広く意見を求めたりする。
- ②計画的・組織的にOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成を図る。
- ③学年経営を軸とした組織的な取組を推進し、子どもから学ぶ姿勢を持ち、それを生かそうとする。

## (6) 信頼され、地域に開かれた学校づくり

地域に学び地域に開かれた学校にするため、地域の人達の協力を得ながら、地域の願いを教育活動に活かしていく。

- ①教育活動や教室を積極的に公開する。授業参観等の機会を生かす。
- ②総合的な学習の時間、生活科、社会科等で地域人材を活用したり地域に出かけ発信したりする。
- ③たより・ホームページ、スクールフォーラム等を通して学校の教育活動を積極的に発信していく。
- ④地域と連携した子どもの安全、健康、心の教育を推進する。
- ⑤保護者の思いや願いの声を反映した学校運営に努める。
- ⑥保護者の子育てや教育に対する意識の啓発や向上に努める。

## 6 本年度の重点的な取組目標と具体的な方策

### 強き、正しき、温かき

みんなの合い言葉として、いつも大切にす

### 笑顔あふれる学校、学級づくり

子どもたちの「できた」「伸びた」「進んだ」「分かった」「解けた」「うれしい」「楽しい」などの笑顔でいっぱいにする

#### (1) 健康で安全な生活を過ごすための実践的な態度を育てる

- ・子どもたちの体力、運動能力の実態を正確に把握し、結果の可視化を図るとともに、計画的な体力づくりに取り組み、積極的に運動する意欲や関心を高める。
- ・自分の健康状態を自ら確認する習慣をつけ、健康状態を維持向上するための手立て、方法を考えることができるようにする。
- ・自分や周りの安全についての意識を高め、安心して校内外の生活ができる資質を養う。
- ・保護者・地域と連携して、安全環境を整えるとともに、安全教育を充実させる
- ・毎月19日に食育指導を行うと共に、児童や家庭にも積極的に働きかけ、食育を充実する。

#### (2) お互いの良さを認め合う温かい人間関係をつくる

- ・相手を意識した言葉遣いで教え合う。
- ・相手の良いところを伝え合い、お互いの自己有用感を高める。
- ・周りのみんなと力を合わせて創り上げる活動を工夫し、協力の大切さや周り一人一人の存在の大切さを体感させる。

- ・縦割りの活動、かかわりを推進し、上級生は下の手本となるよう、下級生は上にあこがれをもつように取り組みを工夫する。
- ・協力し合いながら、心を込めた清掃活動ができるようにする。

### (3) 子どもの主体的な学習を推進する

- ・分かりたい、解きたい、知りたい、考えたいといった思いを持たせる単元の導入、課題の設定を大切にし、工夫する。
- ・学習規律の定着のために、しっかり聞く態度、姿勢の指導を徹底する。
- ・目的ある話し合い活動、個の変容が生まれる交流活動を充実し、思考力、表現力を高める。
- ・個々の実態、力に応じた学習のめあて、目標を持たせ、めあて達成の達成感を体験することで、意欲の継続を図る。
- ・家庭学習の習慣づけのため、自ら学ぶ楽しさ、知ることが増えるおもしろさが高まる家庭学習課題の提示を工夫する。
- ・読書の量と質を高めるために、学校司書と連携し、各教科の授業に合った、タイムリーな図書を活用や国語科の並行読書を推進する。

### (4) 「チーム学校」意識を高め、組織的な取組、協働体制をより充実させる

- ・各分掌担当の役割と責任を明確にし、方策・取組の検証が次に活かされるようにする。
- ・主任会議では「めざす児童像」に対する取組の進捗状況と改善策を検討する。
- ・チーム学年の取組を検証し、改善を図りながら組織的な学年運営ができるようにする。
- ・若手教員早期育成プログラム、中堅教諭資質向上研修の校内研修のため、学年会の時間と内容を充実させる。
- ・報告・連絡・相談を確実にし、いじめや不登校および生徒指導上の諸問題の未然防止、早期発見、迅速な対応に努める。
- ・コミュニティ・スクールとして、家庭や地域と目標を共有し、児童の学力と豊かな心を育てるための取組を工夫する。

### (5) 教職員業務適正化に向け、具体的に取り組む

- ・教職員としての自覚、自身の人間性や、働く意欲と見識を高めるために、働き方について関心を持ち実践していく。
- ・学校便りや学校運営協議会で学校の現状を伝え、教育活動への協力・支援を依頼する。
- ・充実した協働体制の確立とともに、時間を効率的に生かし、継続して長時間勤務とならないようにする。
  - 学年内で授業準備の教科を分担し、学年会において提供し合う。
  - 全職員の1ヶ月あたりの時間外勤務時間を前年度より減少させる。
  - 時間外勤務時間が月60時間を超えることのないようにする。
  - 定時退庁日を設定し、確実に実施する。学校行事、出張等を勘案し、毎月2回（全職員一斉を1回、個別に1回）以上設定する。
  - 退校時刻を設定し、確実に実施する。原則午後7時30分を最終退校時刻とする。